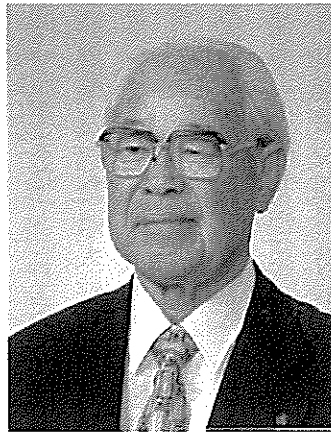


ふくしま県人会だより

第28号
平成25年8月
福島県人会
北海道連合会

連合会会長就任のごあいさつ

会長 神野 修



「この美しい青い空を見てください。うつくしまの空です」

平成七年十月十四日、県営あづま陸上競技場（福島市）で開催された第五十回国民体育大会秋季大会開催式での、福島県知事の誇らしい開会宣言の一節です。

この開会式に、北海道福島県人会の母県訪問団の一員として、天皇・皇后両陛下のロイヤルスタンド真下の特別席に招待され、この言葉に導かれ見上げた空には一片の雲もなく真っ青に晴れ渡っ

た美しい空の色は十八年経た今も脳裏に刻まれた映像がはつきりと蘇ってきます。

このうつくしい福島が、三年前の三月十一日、突如発生した大地震と大津波、そして東京電力福島第一原発の事故により、母県の多くの人の命と、土地も家も、田畑も漁場も一瞬にして奪われ、悲しみと苦しみの母県の人々を思い私たちも又切ない思いであります。

災害がなかった例年の春先、スーパーの店頭には、二本松の「あさつき」が並び、ふるさとの味として毎年口にしていましたが、風評被害で、今年も店頭にならばず、悔しさでいっぱいです。

いま、NHK大河ドラマで「八重の桜」が放映され、戊辰戦争における会津の魂と心意気、そして、藩士も藩民も心を一つにして

戦う姿、それは、会津藩だけでなく福島今の姿に映ります。それだけに母県の人々の心と力の結集として、一日も早い復興ができ、そして、あのうつくしい福島の空と平安が訪れますよう心からお祈りいたします。

去る六月一日の福島県人会北海道連合会総会で、熊坂前会長から連合会長のバトンを受けました。もとより、浅学非才の身、何も力ありませんが、先輩が築き上げてきた県人会発展の為責任を果たしたいと思えます。

皆様のご協力をお願いして、就任のご挨拶といたします。

退任のごあいさつ

さらなる一歩前進を期待する

前会長 熊坂成剛



「光陰は百代の過客なり・・・（中国、唐の詩人李白の漢詩）と言ったこの言葉、任期を終えるにあたりまさにその通りでありました。充分に務めを果たしたのかと言えば忸怩たる思いがします。四年の歳月の過ぎ様は数百年の時の流れに匹敵するような思いが流れます。

平成二十三年三月十一日、連合会総会まであと数か月の時であり、そんな中のまさに天変地異に見舞われ、加えて未だに決定的な原因も対応もできない原発事故が起きたのです。

故郷が崩壊した、これからどうなるのか皆なそう思いました。今年の総会は開けない、という動きがありました。しかし、いま私たちがすべきことは、可能な最大の支援に取り組む事、各地の県人会が故郷を支える態勢を作り上げることが大事であると考えました。懇親会の自粛と県人会体制の継続と確立を図ることが必要と判断しました。皆様の一致した協力の下で、四月一日札幌市で第三十九回連合会総会を開催いたしました。各県人会から多額の義援金

が寄せられ衷心よりお礼申し上げるとともに、母県に対する強い絆を感じました。

あれから三年経った今も事故終息の方策も出ていません。その中で原発輸出や休止原発の再稼働の動きなど、県民の多くの心を逆撫でする動きがあり、避難者への謂れなき誹謗の言葉が出たりしています。無事の県民をどうしようとしているのでしょうか。激しい怒りを感じます。

私は、昨年被災の現地を見て来ました。津波や原発事故被災地の復興はまだまだでありました。道内に避難された県人は相当数おられます。支援は居住する市町村によって異なりますが、道の心のもった対応が望まれます。

私はこの度会長を辞して、神野修苦小牧会長に福島県人会北海道連合会を担っていただく事となりました。被災者支援、故郷の復興支援等、今後の県人会の運動に期待すると共に、私へのご協力ご支援に感謝し新会長に後事を託し、退任と併せ、感謝のご挨拶といたします。

連合会の活動

第四十一回福島県人会北海道連合会総会が開催されました

連合会総会が上川町ホテル大雪において六月一日(土)開催されました。

来賓に村田文雄副知事、斎藤勝利県議会副議長、巻口公治北海道上川総合振興局副局長をお迎えし、道内九県人会、総勢百二十三名が参加して盛大に開催されました。

総会では事業計画・予算が承認され、先の役員会で互選された新役員が報告があり、新たな連合会会長に神野修小牧福島県人会会長が就任しました。また、次回の総会の開催地は函館県人会が担当することに決まりました。

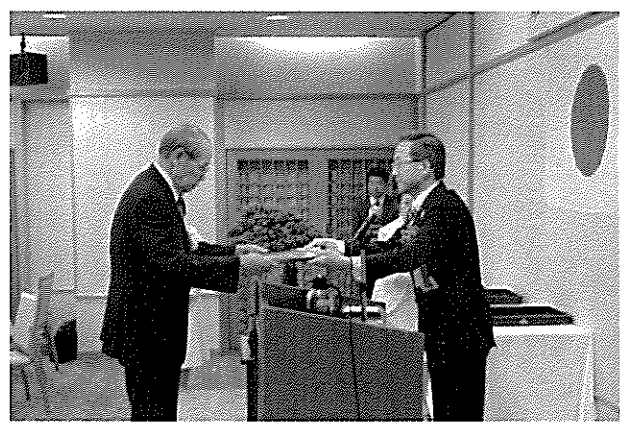
【新役員(敬称略)】

- 顧問 上田小八重 (函館)
- 会長 神野 修 (苦小牧)
- 副会長 木内将一 (千歳)
- 金子民男 (旭川)
- 田中四郎 (札幌)
- 熊坂成剛 (函館)

天野登恵 (浜中町)
青田輝智 (紋別地区)
一條 木 (稚内)

監事 白石政司 (別海町)
近藤康弘 (美幌町)

式典では長年県人会の発展に寄与された木内将一様(千歳)に知事感謝状が、山口正幸様(旭川)はじめ八名の方に連合会会長感謝状が贈られました。



村田副知事から知事感謝状を受賞する木内氏

懇親会では、福島県産日本酒「八重の桜」を飲みながら、NHK大河ドラマの話や、母県の想い出話など時間が過ぎるのも忘れ

交流が続ぎ、お開きは全員で北海道盆踊を踊りました。

【感謝状受賞者】

- 福島県知事 木内将一 様 (千歳)
- 連合会長 寺脇静子 様 (札幌)
- 鈴木孝明 様 (函館)
- 山口正幸 様 (旭川)
- 高宮良純 様 (旭川)
- 岡部貞夫 様 (美幌町)
- 佐藤浩一 様 (紋別地区)
- 佐々木正 様 (稚内)
- 佐野由男 様 (苦小牧)

県人会の活動紹介

YOSAKOIソーラン祭り
福島県チーム「郷人」優秀賞に輝く

札幌福島県人会
会長 田中四郎

各県人会の皆様には健やかに御過ごしの事と存じます。先ず、私事でございますが、今年度、層雲峡ホテル大雪に於いて開催されました、第四十一回福島県人会北海道連合会総会にて副会長に選任されました。会員の皆

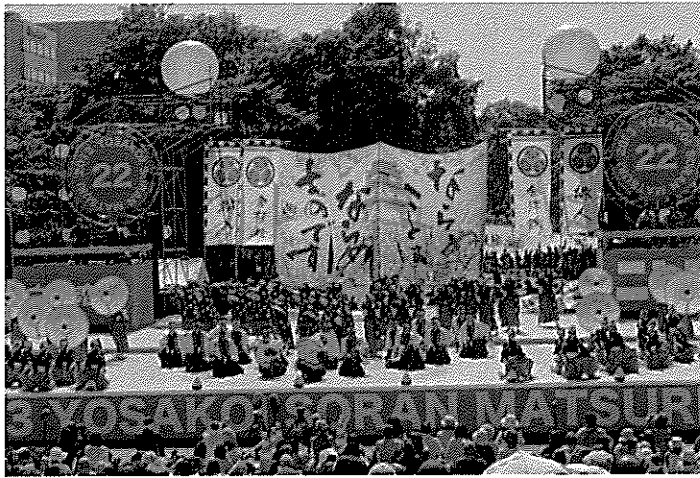
様には今後ともよろしくお願いを申し上げる次第でございます。

さて、札幌の初夏を飾る第二十二回 YOSAKOI ソーラン祭り
りが好天の中、六月五日（水）から九日（日）の日程で札幌市内二十ヶ所の各会場で演舞が行われ、母県福島県から参加しましたチームが良い成績を収めました。

福島県から参加したチームは、南会津郡下郷町のチームで、「郷人」（こうじん）と申します。郷人本隊と子供達の「郷人こめら」で編成されており、サポートの方々を含めて総勢百名からのチームです。代表者は渡辺一さんという方で会津魂を打ち出して参加しております。

今年の演出は「八重の桜」です。メンバーの出で立ちには、頭には葵の紋を付けた白い鉢巻を締め、上衣はピンクというか赤布に白色の桜の絵と会津葵の紋の入った羽織を着用し、袴は黒地に白の縦縞で、背に鉄砲を背負った姿は、今人気のNHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公・山本八重そのものの姿でありました。

郷人の舞は大勢の観衆を魅了



「郷人」の演舞 大通り八丁目会場

致し、国内外からの参加チーム二百七十一チームの中で十一チームだけが厳選されるファイナルステージに残りました。十一チームは、九日の最終日午後九時から大通公園八丁目のメイン会場最後の演舞を行いさらに厳選され、「郷人」はYOSAKOI ソーラン大賞は残念ながら逃しましたが見事「優秀賞」を受賞しました。

大会に向けきつい練習に取り組み、また、下郷町から十年連続

の参加ということ、この賞は札幌に住んでいる私にとりましても喜びであり、心から敬意を表するものであります。

来年も又、元気で参加してくれるものと思っております。どうぞ全道の各県人会の会員の皆様も、是非、札幌のYOSAKOI ソーラン祭りの見物に御出くださいます様に御案内を申し上げます。て連合会だよりと致します。

美幌町福島県人会

副会長 斎藤庄次

母県の皆様、道内各県人会の皆様、お元気ですか。この頃は真夏日が続いておりますが、今冬は美幌地方も寒さが厳しく四月初めには猛吹雪となるなど積雪も多く、遅い春の訪れでした。ようやく夏らしい気候になり、緑一色になりました。

六月一日・二日には、旭川県人会担当の連合会総会が層雲峡温泉で開催され、美幌県人会から十五名が出席しました。母県からは、村田副知事さん、斎藤副議長さんも遠路出席され、母県の復興状況

等について話されるなど有意義な総会でした。総会後は、旭川県人会の皆様が企画による懇親会が開かれ、楽しく過ごさせていただきました。旭川県人会の皆様大変ありがとうございました。



美幌町県人会の皆様

さて、美幌町の夏の最大イベント、第三十四回美幌観光和牛まつりが七月十四日（日）に網走川河畔公園で開催されました。この日は近年にない快晴に恵まれ、町内外から一万七千人が訪れました。会場には、数十軒の露店も並び最高潮、焼肉チケツト四千六百枚も昼前早々に完売、思い思いに三

百五十基の炉を囲み炭火焼きの
おいしい美幌和牛の味を堪能し
ました。当県人会も毎年参加して
おり、今年は十八名が参加。北海
道事務所からは真壁所長と安部
主査の出席をいただきました。

野外ステージでは、美幌北中学
校の吹奏楽演奏、美幌カラオケ連
合会会員・オホーツク歌謡選手権
入賞者の発表会、ものまね歌手

「英二」さんや「藤川なお美」さ
ん等が会場を盛り上げ、野外広場
では北都プロレス教室、プロレス
試合で会場を沸かせ、ふわふわ象
さんではちびっ子たちが汗だく
で動き回るなど大はしゃぎ。美味
しい美幌和牛を腹一杯食べ、そし
て飲み、ステージ等を楽しんだ一
日でした。

各県人会の皆様、来年もこの時
季に観光和牛まつりが開かれま
す。お待ちしております。

「傷心惨目碑前祭」を実施

函館福島県人会

事務局長 古山利勝

五月十一日(土) 高龍寺(函館
市船見町)において、「傷心惨目

(しようしんざんもく) 碑前祭」
を実施しました。

今年は、あいにくの雨となりま
したが北海道事務所から真壁所
長と川島主幹が参加していただ
き、「傷心惨目の碑」の背面に位
置する寺内で供養祭を執り行い
ました。

「傷心惨目の碑」は、戊辰戦争
最後の戦いとなった箱館戦争に
おいて、旧幕府軍の箱館病院分院
だった同寺で、明治二年(一八六
九)五月十一日、新政府軍が来襲
し負傷していた会津藩士らを多



傷心惨目碑前祭

数殺傷するあまりに悲惨な事件
が起き、亡くなった会津藩士をま
つるため「傷心惨目の碑」が建立
されました。



碑前祭の参加者

函館県人会では、一九八〇年か
ら毎年五月十一日「傷心惨目の
碑」の碑前供養祭を実施し、先人
の霊を慰めています。

熊坂会長からは「箱館戦争の時
も冷たい雨が降った日もあった
ろう。先人を偲ぶとつらい思いも
あるが、私たちは、福島の復興に
向けて力を合わせてがんばって
行こう」と挨拶がありました。



みなとオアシス sea 級グルメで物販と観光 PR

また、住職の話では「NHKの
大河ドラマ「八重の桜」の影響で
寺を訪れる人が増えた。これも、
函館福島県人会の皆様が、毎年供
養していただける賜だ」と函館県
人会の取り組みに感謝をしてお
りました。

福島のももと観光PRを実施

苦小牧福島県人会

事務局長 大槻 正吾

第三回みなとオアシス sea
級グルメ全国大会 in 苦小牧で
福島県産品を販売

今年、苦小牧港開港五十周年を迎えます。このため、七月十三日（土）～十五日（月）、新たにリニューアルされた北ふ頭キラキラ公園（苦小牧市）において、苦小牧港開港五十周年記念第三回みなとオアシスsea級グルメ全国大会in苦小牧が開催され、苦小牧県人会は被災地復興支援ブースにおいて、福島県産モモジューズ（福島桃の恵み）と、喜多方ラーメンの販売、また、ポスターやパンフレットによるふくしま観光PRを実施しました。初めての出店で、どの程度売れるかわかりませんでした。目標以上の販売をすることができました。

なお、sea級グルメ全国大会には全国から十六チームが参加し、前回グランプリに輝いたみなとオアシス小名浜（福島県小名浜港）「ジャンボカジキメンチ」は三位となり、リベンジを誓っておりました。

当日は、天候にも恵まれ、また、帆船海王丸が入港したこともあり、約五〇、〇〇〇人の来場者がありました。

とまこまい港まつりになくてもならない福島県産モモ販売

とまこまい港まつりにはなくてはならない苦小牧福島県人会による福島県産モモ（あかつき）販売。今年、ミスピーチキャンペーンクルー堀江結佳さんを招き、店頭販売と関係機関への表敬訪問を実施いたしました。



ミスピーチも参加した とまこまい港まつり

第五十八回とまこまい港まつりが八月二日（金）から四日（日）までの三日間苦小牧市で行われ、恒例の苦小牧福島県人会による福島県産モモ（あかつき）の販売

を行いました。初日は十二時から販売開始となりますが、開始前から多数のお客さんがブースを訪れ予約をしてくれました。さらに、ミスピーチが店頭でPRを行うと、さらに多くのお客さんや周辺のブースの担当者も集まり写真を「パシッ!」。「ミスピーチも来て華やかだね」とうらやましがられました。

また、ミスピーチと神野会長、藤本幹事長、大槻事務局長、川島主幹らによる関係機関の表敬訪問をおこない、モモと会津の縁起物、起き上がり小法師をプレゼント



苦小牧市長へ福島県産モモのPR

トして、福島県のPRを行ってききました。どこの表敬訪問先でも「福島県産のモモは大変美味いし、このお盆に絶対必要だね!」と激励の言葉を頂きました。

表敬訪問の記事が掲載されたためか、最終日は、さらに販売が加速し、売れ行きを覗いていた苦小牧中央青果（株）の担当者に、急遽、翌日予約販売の予備分を追加していただき販売しましたが、結局焼け石に水の状態、午後七時に完売しました。

今年、店頭と予約で約千箱（二十五箱）の販売となりました。

福島県くだもの消費拡大委員会が札幌・旭川県人会を表敬訪問

北海道における福島県産モモの消費拡大PRのため、「福島県くだもの消費拡大委員会」の皆様が、七月二十五日（木）から二十七日（土）の三日間来道しました。委員会の皆様は、札幌市・旭川市の市場代表者に県産モモの美味しさと、安全性をPRすると

もに、市場のセリ台に立って、仲買人に対しても県産モモのPRを行いました。

また、札幌福島県人会、旭川福島県人会を表敬訪問し、美味しく実ったモモのプレゼントを行いました。各県人会の皆様とも、一日でも早い母県復興のため、出来る限りの支援をしていきたいと力強い言葉を頂きました。



札幌県人会 田中会長 船山副会長



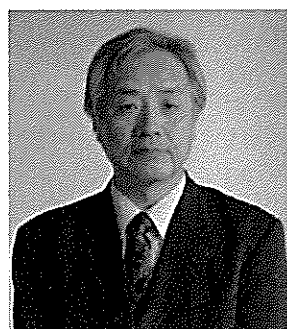
旭川県人会 金子会長 小野顧問

県人会への表敬訪問

新任職員紹介

新任県事務所長挨拶

所長 真壁 勇



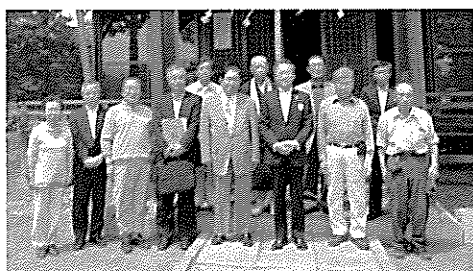
北海道経済センター五階から見える景色は新緑と抜けるような空の青。北海道の一番いい季節の中にいるとつくづく実感している毎日です。赴任した時はまだ歩道に雪が残っていました。あつとと言う間に夏の装いに変わり、季節の早さに驚いております。

挨拶が遅れました。四月から北海道事務所長を務めております真壁です。六月一日の連合会総会が無事終了したこと、皆様方のご協力に感謝申し上げます。新任所長としては少し安堵しております。

この間、幾つかの県人会の集まりに参加させていただきました。札幌、千歳、函館、旭川、美幌町。有り難いことに何処でも温かく

迎えていただきました。今年度中に全ての県人会にお邪魔したいと考えております。

特に、連合会総会の翌日に村田副知事に随行したペーパン地区では、農繁期の中、多くの方に対応していただきました。



村田副知事（右から5番目）とペーパン地区の皆様

大都市札幌の景色を見慣れていた私には、そこでの田園風景は生まれ故郷を思わせる懐かしさがありました。（私は須賀川市の南西部、旧稲田村出身です。）

ただ、その美田も一昔前は手つかずの原野。その時に聴いた入植者の方々の苦労話には唯々頭の下がる思いがしました。

全ての県人会の方々、そしてその父母や祖父母の方々等が、新たな大地に新生活の糧を求めて努

力されてきた、その積み重ねが今の北海道を創ってきたのでしよう。

福島県は三・一一以後、様相が一変しました。未だ十五万人の県民が避難生活を続けています。福島市の自宅の近くにも多くの仮設住宅があります。この方々が故郷に帰れる日までは、まだまだ多くの困難が待っています。先人がこの北海道を切り拓いていったように、福島県も一歩一歩確実に復興の歩を進めています。一日も早い復興に向け、引き続き、県人会の皆様の変わらぬご協力をお願いいたします。

新会員紹介（敬称略）

札幌県人会

飯塚保朗（南会津町）

水沼真子（南相馬市）

高橋 仁（会津若松市）

稲村宗彦（会津坂下町）

稚内県人会

原田善久（福島市）

苫小牧県人会

佐々木恵久子（福島市）

石森 亮